

## 36 住民みんなのまちづくり

### 【き】 地域名物の「うだつ」がきっかけでした

地域の名物である「うだつ」に対して、テレビ局や新聞社の取材があり、まちづくりの機運が地域で盛り上がってきました。

それを受けて、平成13年4月、新町区の区長が気心の知れている地域住民20人くらいに声をかけて、「しんしん倶楽部(新町まちづくり協議会)」を発足しました。

### 【概】 さまざまなイベントを住民自らの手で実現

平成13年4月に発足して以来、「花いっぱいのもちづくり」「空店舗を使った博物館の開設」「月見会や文化祭などの懇親イベント」などを住民自らが計画・実現してきました。

このような、地域の幅広い年代の人たちが参画・協働できる事業を通じて、住民みんなのまちづくりを推進中です。

### 【成】 地域のコミュニケーションが増えてきました。

町から派遣していただいてコンサルタントや神戸大学の澤先生など、外部の専門家のアドバイスも活用しながら、住民主体のまちづくりを進めてきました。さまざまな取り組みを通じて、地域の子どものからお年よりまで、コミュニケーションは確実に密になってきています。

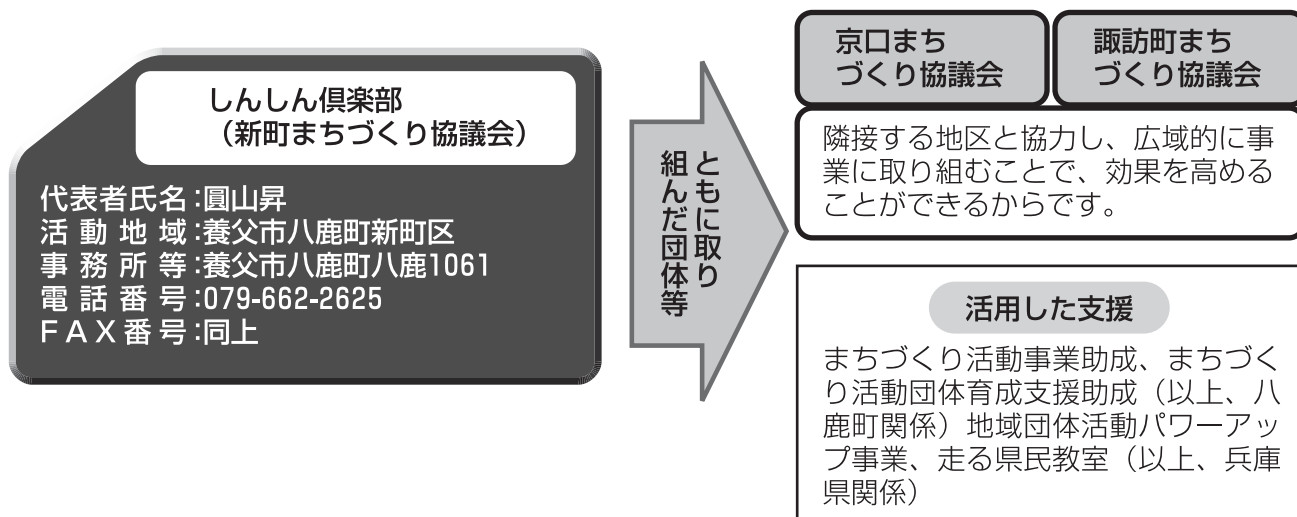
### 【夢】 実現したいアイデアはたくさん！

地区のさらなる活性化へ向けて「交通体系を考えるワークショップ」「空地・空家・空店舗の実態調査」「トイレの建設を考えるワークショップ」などを企画し、実施に向けて準備しています。

また、私たちは、まちづくりは自分たちの地区のことだけを考えるのではなく、近隣地区と協働で取り組んでいくべきだと考えています。今でも協力しあっている京口まちづくり協議会や諏訪町まちづくり協議会との協働をより一層強め、ともにまちを元気にしていきたいと考えています。



活動風景





## 最初に頑張って1年間の事業計画をつくるんです

助成金などの情報はインターネットで得ています。特に官公庁のホームページは定期的にチェックしています。

申請書を簡単に書くコツは、最初に1年間の事業計画をつくってしまうことです。申請書で聞いてくることはだいたいいつも決まっていますから、初めに型をつくっておけば、後は助成事業の内容にアレンジすればいいのです。



## 子どもたちも、お年寄りも巻き込んで

自治会活動は地域の世帯主が中心ですが、まちづくり活動は、子どもからお年寄りまで、まちのみんなが参画してこそ意義があると考えています。

しんしん倶楽部では、会場に子供たちの作品を展示するミニ文化祭を毎年開催したり、「走る県民教室」を利用して地域の親子が神戸のまちづくり団体や人と防災未来センターを訪問したり、といった活動にも取り組んでいます。



地蔵祭りの様子

また、地蔵祭りでは、以前は準備などを手伝ってくれた人だけにポップコーンなどの無料引換券を配っていましたが、昨年からは全戸に配布しています。活動をする上でお金は確かに大事ですが、地域みんなで盛り上がることのほうがもっと大事だと考えたからです。



## ワークショップでみんなが意見を

コンサルタントからワークショップのやり方を教えてもらい、それ以来みんなで何かを決めるときに活用しています。

普通の会議形式では一部の人に意見が片寄りがちでしたが、ワークショップを活用することにより、幅広い人たちから意見が出るようになりました。

ただ、ワークショップをしたからと言って、必ずしも全員の意見が1つにまとまるわけではありません。それよりも、みんなが意見を出して、話し合えるということがワークショップの利点だと思います。

### 求ム!

区民の皆さん、キーパーソンには構想・行動・意識の3種類が有ります。御家で眠っている意識のキーパーソンの皆さん、活動にぜひご参加ください。

陽だまりの中、植栽の様子をいすに座って御覧になることも参加することですよ!

### 読者の皆さんへのメッセージ

平成13年4月に発足以来、コンサルタントの指導を受けてまちづくりに取り組んできました。今後、より活動を発展させていくためには、スタッフの不足・合意形成が新たな課題です。良いアドバイスがあれば、よろしくお願いします。